

第一回 医療安全セミナーのお知らせ

はじめに

日本臨床医学リスクマネジメント学会では、これまでも定期的なセミナーを開催してまいりました。しかしながら、医療現場からは、より具体的なセミナー開催の要望が多く出ております。そこで、今回の医療安全セミナーは、厚生労働省が定める「医療安全管理者の業務指針」に準拠した医療安全管理者の方々のための研修会であるとともに、医療安全に興味のある現場スタッフにも参加していただけるような内容での企画をさせて頂きました。医療機関におけるチーム医療体制の具体的な実施例を数多く紹介し、また、演習においては現場ですぐに実践できるような内容としております。

※ 本研修会は、厚生労働省の定める医療安全管理者のための研修指針に沿った内容となっております。全6日間を受講いただくことによって、申請のための40時間を超える研修となり、本学会より受講証明証を発行致します。

平成25年4月3日

一般社団法人 日本臨床医学リスクマネジメント学会
理事長 吉田謙一

<http://riskmanage.kenkyuukai.jp>
email: riskmanage-adm@umin.ac.jp

日時

【第1クール 平成25年7月26日(金)、27日(土)、28日(日)、東京大学】

【第2クール 平成25年8月9日(金)、10日(土)、11日(日)、東京大学】

時間：各クール

初日 10:00-19:00

2日目 9:00-17:00

3日目 9:00-16:00(終了)

場所：東京大学医学部本館および医学部教育研究棟等

募集人員 約120名

参加費(各1日あたり) 会員：10000円 非会員：15000円

定員になり次第締め切りさせて頂きます。

お申し込みは、4月中旬頃 学会ホームページで行う予定です。

医療安全セミナーの概要

全6日間のセミナーですが、1日単位での参加も可能です。施設での効果的な医療安全活性化のためにも、医療安全管理者と医療安全に興味のある現場スタッフのペアでの参加をお勧めいたします。

今回のセミナーの特徴は、以下の通りです。

1. 医療安全管理上重要とされる KYT、RCA、FMEA などの代表的手法に関して、従来の研修会ではその手法が取り扱われることが多くありますが、いかにこれらの手法を使いこなすかに重点をおいてあります。
2. チーム医療の重要性について理解はできても、実践となると上手くいかないことが多いものです。新しい概念としての信念対立構造を理解し、チーム医療成功施設の経験を参考に、チーム医療の実践のコツ、ピットフォールについて議論していただきます。
3. 医療事故を未然に防ぐための警報学や、効果的な振り返りのための M&M カンファレンスなどの新しい有用な概念を積極的に取り入れました。
4. 演習はできる限り臨場感を持って、現場感覚を保ちつつ議論をできるように、人工呼吸器、輸液ポンプを始め実機を多く用意をしてあります。

【第1クール】 1日目 7月26日(金) 東京大学

メインテーマ：医療安全の基本①(座学)

- 10:00-11:30 「医療安全の考え方」
福島県立医大医療安全管理部教授
橋本 重厚(本会監事)
- 11:30-12:30 昼食
- 12:30-14:00 「医療安全管理者の業務」
日本看護協会常任理事
松月 みどり(本会代議員)
- 14:10-16:00 「医療事故における院内事故調査の法的問題点
—当事者となった医療関係者の権利保護の必要性とその方策—」
大阪大学招聘教授 弁護士
阿部 隆徳
- 16:10-16:40 「医療安全調査機構地域代表だった視点からの
機構の現状と将来」
東京大学附属病院救急部教授
矢作 直樹

- 17:00-17:30 「東京女子医科大学の医療安全管理 10 年」
東京女子医科大学病院医療安全管理部
金子 恵美子
- 17:40-19:00 「救急医療における円環型多職種チーム医療
-チーム医療の基本形態としての特質について」
日本大学医学部附属板橋病院病院長
丹正 勝久（本会副理事長）

【第 1 クール】 2 日目 7 月 27 日（土） 東京大学

メインテーマ：警報学

- 9:00-10:30 「座学：警報（アラーム）学概論-医療事故を未然に防ぐために」
日本大学医学部附属板橋病院
古川 力丸
- 10:30-12:00 「座学：患者情報の振り返りと M&M カンファレンス」
（演者調整中）
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-15:00 「演習：医療機器のアラームの使いこなし方」
担当ファシリテーター
- 15:00-17:00 「演習：患者情報の振り返りと M&M カンファレンス」
担当ファシリテーター

【第 1 クール】 3 日目 7 月 28 日（日） 東京大学

メインテーマ：医療安全とチーム医療

- 9:00-10:00 「座学：NST、RST、RRS 成功例に学ぶチーム医療の重要性」
北里大学病院 RST/RRT 室
森安 恵美
- 10:00-11:00 「医療安全におけるリスクコミュニケーション」
（演者調整中）
- 11:00-12:00 「座学：チーム医療における障害：組織運営と信念対立構造」
埼玉成恵会病院 外科
清水 広久
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-16:00 「実習：信念対立の理解とチーム構築技法」
担当ファシリテーター

【第2クール】 1日目 8月9日(金) 東京大学

メインテーマ：医療安全の基本②(座学)

- 10:00-11:30 「医療チームのノンテクニカルスキル
-スピークアップとフォローシップ」
大阪大学附属病院クオリティーマネジメント部
中島 和江
- 11:30-12:30 昼食
- 12:30-14:00 「安全な手術を演出する」
東大病院手術部長
安原 洋(本会理事)
- 14:10-15:40 「患者の安全・安心と医療事故調査に関する最近の動向」
昭和大学病院長、日本救急医学会理事長
有賀 徹(本会副理事長)
- 15:50-17:30 「死因究明から再発防止を考える」
東京大学法医学教授
吉田 謙一(本会理事長)
- 17:40-19:00 「チーム医療推進のための人材育成システム」
昭和大学病院 救急医学科 三宅 康史
昭和大学薬剤部、同看護部 峯村 純子、城所 扶美子

【第2クール】 2日目 8月10日(土) 東京大学

メインテーマ：KYTとRCAを使いこなそう

- 9:00-10:30 「座学：KYTの使いこなし方」
- 10:30-12:00 「座学：RCAの使いこなし方」
菊名記念病院 医療安全管理室長
新村 美佐子、他(調整中)
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-16:00 「演習：KYT、RCA」
担当ファシリテーター

【第2クール】 3日目 8月11日(日) 東京大学

メインテーマ：FMEA

- 9:00-10:30 「座学：FMEA 概論-頻度と影響度に基づく医療事故対策」

東京大学医学部附属病院 医薬品安全管理者
清野 敏一

- 10:30-11:30 「座学：インシデント・アクシデントレポートの活用」
(演者調整中)
- 11:30-12:30 昼食
- 12:30-16:00 「演習：FMEAによる既存マニュアルの見直し」
担当ファシリテーター

医療安全セミナーの詳細のご案内

【第1クール】 1日目 7月26日(金) 東京大学
メインテーマ：医療安全の基本①(座学)

- 10:00-11:30 「医療安全の考え方」
福島県立医大医療安全管理部教授 橋本 重厚(本会監事)
- 11:30-12:30 昼食
- 12:30-14:00 「医療安全管理者の業務」
日本看護協会常任理事 松月 みどり(本会代議員)
- 14:10-16:00 「医療事故における院内事故調査の法的問題点—当事者となつた医療関係者の権利保護の必要性とその方策—」
大阪大学招聘教授 弁護士 阿部 隆徳
- 16:10-16:40 「医療安全調査機構地域代表だった視点からの
機構の現状と将来」
東京大学附属病院救急部教授 矢作 直樹
- 17:00-17:30 「東京女子医科大学の医療安全管理10年」
東京女子医科大学病院医療安全管理部 金子 恵美子
- 17:40-19:00 「救急医療における円環型多職種チーム医療
-チーム医療の基本形態としての特質について」
日本大学医学部附属板橋病院病院長 丹正 勝久(本会副理事長)

【第1クール】 2日目 7月27日(土) 東京大学

メインテーマ：警報学

9:00-10:30 「座学：警報学概論-医療事故を未然に防ぐために」

日本大学医学部附属板橋病院

古川 力丸

医療機器のアラームのみではなく、身体所見や各種ドレーン排液の性状、量などすべての患者情報がアラーム(警報)であると考え包括的に扱う必要があります。警報を早期に発見し、早期に介入することによって、影響度を小さくすることが可能となり、また比較的簡単な介入に留まることが多いとされています。医療事故を起こさない、医療事故発生時に早期発見をするためには医療機器のアラームを使いこなすことが重要です。警報には、頻度は低いものの緊急度が高く早期介入が必要なものと、頻度が高いが緊急度は低い病態変化を示唆するものがありますが、それぞれの特徴と見分け方を学習します。本座学では、警報を包括的に扱い、介入するための基礎知識を学びます。

10:30-12:00 「座学：患者情報の振り返りと M&M カンファレンス」

(演者調整中)

M&M (Morbidity&Mortality) カンファレンスとは、アクシデントやインシデント、好ましくないアウトカムになってしまった症例に対して、その原因を検討し対策について議論を行うものです。教育病院を中心に、欧米では一般的に行われている手法です。原因は医学的見地のみではなく、当事者の精神状態や環境因子、組織体制など多岐にわたり検討を行います。本座学では、M&M カンファレンスの有用性と標準的な進行方法について学習します。

13:00-15:00 「演習：医療機器のアラームの使いこなし方」

担当ファシリテーター

小グループに分かれ、人工呼吸器、輸液ポンプ、患者監視モニター(心電図、心拍、血圧など)などの医療機器のアラームへの対応を議論します。模擬事例と実機を用いた実習になります。

15:00-17:00 「演習：患者情報の振り返りと M&M カンファレンス」

担当ファシリテーター

模擬事例に対して、患者記録を振り返り、M&M カンファレンスを行います。

【第1クール】 3日目 7月28日(日) 東京大学

メインテーマ：医療安全とチーム医療

9:00-10:00 「座学：NST、RST、RRS 成功例に学ぶチーム医療の重要性」
北里大学病院 RST/RRT室 森安 恵美

近年、チーム医療の重要性が認識され、栄養サポートチーム、呼吸サポートチーム、院内急変対応システム等に注目が集まっています。本座学では、これらのチーム医療の成功例について報告いただき、チーム構築までの問題点、解決策、解決手法について学びます。

10:00-11:00 「座学：医療安全におけるリスクコミュニケーション」
(演者調整中)

10:00-12:00 「座学：チーム医療における障害：組織運営と信念対立構造」
埼玉成恵会病院 清水 広久

チーム医療の重要性が認識されるなか、その重要性を共有認識しているものの成功しないというケースが数多く見られます。このようなケースではスタッフ間（他職種、同職種、）の信念対立がしばしば問題となります。本座学では、良好なチーム医療実現のためのチーム構築法とその障害となる信念対立構造について学び、その対策について議論します。

13:00-16:00 「演習：信念対立の理解とチーム構築技法」
担当ファシリテーター

小グループに分かれ演習を行い、良好なチーム構築の障害となる信念対立構造に対する理解を深めます。マインドマップなどの問題解決技法を用いて、良好なチーム構築のための概念、具体的技法について演習を行います。

【第2クール】 1日目 8月9日(金) 東京大学

メインテーマ：医療安全の基本②(座学)

10:00-11:30 「医療チームのノンテクニカルスキル
-スピークアップとフォロワーシップ-」

大阪大学附属病院クオリティマネジメント部 中島 和江

11:30-12:30 昼食

12:30-14:00 「安全な手術を演出する」

- 東京大学附属病院手術部長 安原 洋 (本会理事)
- 14:10-15:40 「患者の安全・安心と医療事故調査に関する最近の動向」
昭和大学病院長、日本救急医学会理事長 有賀 徹 (本会副理事長)
- 15:50-17:30 「死因究明から再発防止を考える」
東京大学法医学教授 吉田 謙一 (本会理事長)
- 17:40-19:00 「チーム医療推進のための人材育成システム」
昭和大学薬剤部、同看護部 峯村 純子、城所 扶美子

【第2クール】 2日目 8月10日(土) 東京大学
メインテーマ：KYTとRCAを使いこなそう！

9:00-10:30 「座学：KYTの使いこなし方」
菊名記念病院 医療安全管理室長 新村 美佐子、他

KYT(危険予知トレーニング)は、職場や作業の状況の中に潜む危険要因とそれが引き起こす現象に対して、危険のポイントや重点実施項目を指差唱和・指差呼称で確認し、行動する前に解決する訓練です。危険性の情報を共有することで、予測できる事故やインシデントの発生を未然に防ぐとともに、危険予知の感受性を高めることが出来るとされています。本座学では、これらの効果と手法、進行方法、活用法などを学びます。

10:30-12:00 「座学：RCAの使いこなし方」
菊名記念病院 医療安全管理室長 新村 美佐子、他

RCA(Root Cause Analysis)とは、不具合や事故が発生した後に事故からたどって、その背後に潜むシステムの問題、およびヒューマンファクターを探る方法です。原因の同定、改善策を考案し、追跡調査する潜在的な問題を明らかにすることができます。さらに、その根本原因と考えられる事象に対して対策立案を行います。本座学では、RCAの標準的な進行方法と施設内での運用方法を学びます。

13:00-16:00 「演習：KYT、RCAを使いこなす」

小グループに分かれ、4つのシチュエーション：人工呼吸器、輸液ポンプ、救急カート、外来診察室(実機を用い再現)それぞれに対してKYTを行います。事前に参加者の施設の写真(人工呼吸器回路、救急カート)を集め(希望者のみ)KYTを行うことによって参加者が翌日から活かせる演習となります。次いで、KYTを行った4つのシチュエーションで発生した模擬事故に対してRCAを行っていただきます。

【第2クール】 3日目 8月11日（日）東京大学

メインテーマ：FMEA

9:00-10:30 「座学：FMEA 概論-頻度と影響度に基づく医療事故対策」

東京大学医学部附属病院医薬品安全管理者 清野 敏一

FMEA (failure mode and effects analysis) とは、エラーの起こる「頻度」と、その結果として引き起こされる有害事象の「影響度」に焦点をあてて解析を行う手法です。既存のマニュアルの見直しを行う場合の効率的な対策の立案などに用います。本座学では、FMEA についての理解を深めるとともに、実践に活かすための工夫について学習します。

10:30-12:00 「座学：インシデント・アクシデントレポートの活用」

(演者調整中)

10:30-16:00 「演習：FMEA による既存マニュアルの見直し」

担当ファシリテーター

小グループに分かれ、用意した模擬マニュアルの改訂作業を行います。効率的な改訂作業のために FMEA 解析を行い、「発生頻度」と「結果の影響度」という二つの軸の重みづけを行います。FMEA で導き出された既存マニュアルの潜在的エラーに対して、対策立案を行います。最後に全体で、改善されたマニュアル、立案された必要な対策に対して総合討議を行います。